

# 第461回鉄鋼流通問題懇談会

2023年4月26日（水）15：00

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟第1会議室」

## 議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
  - (1) 地区の状況
    - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
    - 大阪、新潟、東北、石川地区概況報告
  - (2) その他地区の概況
    - 鉄流懇4月例会で発表の各地区業況アンケート結果
  - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 鉄流懇会長挨拶
5. その他

○次回以降会議予定

2023年7月27日（木）14：30～

於：茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟第1会議室」

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2023年4月）

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	エムエム建材
1. 需給動向(景況感)	(店売り分野) 中小案件停滞の状況は変わらず、大型建築案件も端境期で精彩を欠いている、特約店再販を主とする荷動き全般は低調が続く。在庫も増加傾向。販売店は再販価格の転嫁は実行済であるが、先行き不透明感あり。	2023年2月末の薄板3品在庫は、前月比4.2万トン減の423.3万トンであった。在庫内訳はメーカー在庫が前月比2.7万トン減の179.6万トン、問屋在庫が0.4万トン減の92.9万トン、コイルセンター在庫が1.1万トン減の150.8万トンであった。品種別内訳では、熱延鋼板が前月比3.5万トン増の210.4万トン、冷延鋼板が89.5万トンで前月比横ばい、表面処理鋼板が0.7万トン減の123.4万トンであった。2月の在庫増については、3.35カ月となり、前月在庫増が、3.08カ月であったので、0.27カ月増加した。3品在庫も減少傾向にあるとみられるが、建築需要及び製造業全般の荷動きも良くなり、当面は400万トン程度の在庫で推移すると予想されます。	2023年2月末の全国厚板在庫は426千トン(前月比▲1.6%、前年同月比+2.8%)。在庫増減率も引き続き前月と同様に減少しているが、荷動き低調にて在庫減少ペースが鈍化し、懸念事項は不明である。在庫率は27.7%(前月比▲24ポイント)と在庫高、出荷量減少を背景に依然適正(20.0%)を上回る状況が続いている。在庫動向は受注調整で改善を促しているが、北米、欧州での金利上昇と金融不安により投資意欲が低迷し今後下振れる懸念あり。部品調達は回復傾向にはあるが、半導体の需給懸念は依然継続。物流倉庫、原料などの大型案件も増加、中小建築案件の回復材料も乏しく、足元需要の回復は低水準で、建築案件も建築工事を中心に需要は安定しているが半導体は増産を、需要の回復により、タイトな状況にはならず、ユーザーへの価格転嫁も遅延。	【棒鋼】2月から3月にかけてスクラップ市況が高値推移したことや、1月に発生した棒鋼メーカーの火災による供給懸念等もあり、棒鋼市況も上昇していたが、足下はスクラップ市況のジリ安を受け、セネコンを始めとした需要家は様子見に徹している。一方でメーカーは電力およびガス、資材のコストが重荷となっている事から、引続き値上げの趣向に変化はないと見られる。 【形鋼】全体感で見ると、大型案件に付随した加工などは引き続き好調も、建設スケジュールの遅れから2~3月にかけて加工ラインに空きが出る業者も散見された。特に中小案件に依存する業者の底値が顕著となっており、早期の需要回復が待たれる。高、形鋼も高値で、電材メーカー共に3月は3月/kgの値上げを実施しており、市況は先高気配となっている。
2. 需要産業動向	<建築・土木>2月の新設住宅着工戸数は、前年同月比3.8%減の6.4万戸。一方民間非居住用建築物の着工延床面積は259万m <sup>2</sup> と前年同月比14.7%減で3か月ぶりの減少。事務所、倉庫、向けの減少大きい。全建築物の着工床面積は899m <sup>2</sup> と前年同月比4.0%増となった。 <自動車>2月の国内生産台数は、前年同月比6.9%増の70万台だった。車載半導体不足の影響は続いているが、3月も増産傾向にある。 <建機>2月の建設機械出荷金額は、内需14.6%増の901億円、外需22.0%増加の2153億円となり、外需は28カ月連続の増加となった。総合計でも19.7%増加の3,053億円となり、28カ月連続の増加となっている。 <造船>2月の鋼管受注・造船実績は、受注24隻、起工29隻、竣工29隻、竣工船価1200億円(前年同月比6.2%増)であった。	2023年2月度の国内新車販売台数は前年同月比20.3%増の42万6726台であった。登録車の新車販売台数は同26.3%増の26万9837台と2カ月連続で増加した。車種別では普通乗用車が、同43.6%増の15万274台と2カ月連続でプラスとなった。 2023年2月度の民生用電機機器の国内出荷金額は、1925億円(前年同月比2.1%増)で2カ月連続の増加であった。ルームエアコンは517億円と前年比増7.7%と2カ月ぶりのプラス、電気冷蔵庫は357億円と前年比3.3%増、電機洗濯機は329億円(前年比2.2%増)で2カ月連続のプラスとなった。 2023年2月度の新設住宅着工戸数は6万4426戸で前年同月比0.3%減であった。種別では持家が1万8368戸(前年同月比4.6%減)と15カ月連続の減少、貸家が2万4692戸(前年同月比4.7%増)と24カ月連続増加、分譲住宅は2万1062戸(同1.8%減)と3カ月ぶりの減少であった。	国内造船所の22年度輸出契約実績は1,174万総トン(前年度比▲18%)。コンテナ船ブームに沸いた前年度は下回るも、NOx規制適用前の増産も利益に繋がった。15年度以降、2番目の高水準。ボイラーを中心に商談状況改善調だったが、夏場以降、鋼材価格の上昇で高止まりする船舶と弱含む長期用原料とのギャップが拡大し新造船商談は悪化。手持ち工事量は3月末時点で498隻、2,216万総トンと約2.7年分の工事量を確保している。建設現場の23年2月出荷金額(輸送品除く)は内需が787億円(前年同月比+16%)、外需は1,945億円(同+27%)、総合計では2,732億円(同+24%)。北米、アジア向け輸出に加えて国内向けも出荷が伸びた影響で、全体では2ヶ月連続で増加した。産業機械の23年2月受注金額は内需が2,874億円(前年同月比+24%)、外需は1,126億円(同+8.5%)、総合計4,000億円(同+19%)。種別別では建設機械(同+45%)、ポンプ(同+58%)、印刷機(同+12%)、化学機械(同+8.6%)、ボイラー・原動機(同+6.8%)など計7機種で増加し、総合計では2ヶ月連続の増加となった。	【棒鋼】国交省発表の2月の住宅着工戸数は64,426戸で前年同月比▲0.3%となり、そのうちマンションは9,750戸で前年同月比+0.2%、戸建て住宅は11,202戸で▲3.3%という結果となった。建設現場は多忙な状況が続いているが、鉄筋工不足が常態化しており、手持ち工事を控える動きも散見されている。しばらくは現状のまま推移すると思われ、今後、人手不足および2024年輸送問題等の懸念事項をどうクリアして行くかがカギとなる。 【形鋼】2023年1月の建築着工統計に基づく換算鉄骨量は31.9万トンと前年同月比で▲10%となった。物流倉庫や再開発などの大型案件は好調であり、来年度に向かって更に上伸して行くと思われるが、資材価格高騰を嫌気した中小案件の落ち込みは、マーケットにも影を落としており、今後とも現況が続く様であれば、出件を手控える動きも顕著になるであろう。
3. 輸出入動向	2023年2月鋼管輸出货量 継目無鋼管:2万4,930トン(前月比▲10.9%) 溶接鋼管:1万9,141トン(前月比+54.9%) 2023年2月鋼管輸入量 継目無鋼管:963トン(前月比▲37.4%) 溶接鋼管:8,171トン(前月比▲4.7%)	2月の輸入薄板の入荷量は28.8万トンで、前月比4.7万トンの増加、前年同月比では5.8万トンの増加となり2022年10月以来の高水準となった。 主要品種別では、熱延広幅帯鋼が10.7万トンで2か月ぶり、冷延広幅帯鋼が7.5万トンで3か月連続、表面処理鋼板が、10.4万トンで4か月ぶりの増加となった。	23年2月の輸入通関実績は32千トン(前月比▲16%)、韓国が23千トン(同▲35%)と大幅減、その他中国が8.9千トン、台湾が0.8千トン。23年2月の鉄鋼輸出入実績は262千トン(前月比+36%)。韓国生産量が70千トン(同+17%)、中国向けが52千トン(同+52%)、台湾向け30千トン(同+170%)、タイ向け4千トン(同+29%)と増加、前年同月比でも+17%と増加。	直近の実績(23年2月統計データ)に見る輸出入状況は <輸出>形鋼:54千MT前月比20.2%増、前年同月比47.1%増 棒鋼:22千MT前月比10.4%減、前年同月比21.4%減 <輸入>形鋼:3.3千MT前月比62.2%減、前年同月比11.9%増 棒鋼:0.1千MT前月比15.3%減、前年同月比11.1%増 ※形鋼は輸出入共にH形鋼以外も含む ロシア・ウクライナ戦争に伴うインフレ抑止を目的とした各国の利上げにより、再度世界的な景気後退懸念が浮上り、棒鋼の主な輸出先である韓国は中小セネコンの財務状況悪化等により需要が低迷。他方アジア各国半導体の状況は改善していたもののコロナ禍からの一定の回復、中国ゼロコロナ撤廃に伴い、人の往来・建設案件の再開が活発化、形鋼の輸出増加に繋がった。
4. 海外市場動向	原油価格は2か月連続下落と3月平均WTIは73.37ドル/バレルとなり、2ヶ月前(1月平均78.1ドル/バレル)に比して約6%減となった。米国リグカウント数は微増(12月最終週:758と昨年11月依頼の2週連続増加となった。依然として油井管の需給タイト環境が続いており、高値圏で取引されている。	世界鉄鋼協会の発表では2023年の世界鋼材需要が18億2230万トンになるとの見直しになるとの発表をした。 2022年の世界鋼材需要は17億8150万トンであり、2.3%増となる見直し。半導体不足などの影響が段階的に緩和し、中国、インド、日本などで自動車や産業機械向けの需要が伸びる見直し。	韓国メーカー3社の23年3月厚板出荷量は800千トン(前月比+17%、前年同月比+10%)と増加、国内販売量は624千トン(前月比+24%)と増加したが、輸出販売量は176千トン(同▲3.8%)と減少。23年1-3月の累計販売量は2,120千トン(前年同月比▲5.2%)。各メーカーは原料コスト増を背景に値上げ姿勢も国内厚板需要は造船が以外弱く、市況影響も、中国の3年3月の粗鋼生産量は9,573万トンと22年6月以来の高水準。利益率の改善や季節要因による建設活動拡大の期待で増産。また、需給のバランスを取るため、国内の23年の粗鋼生産量を前年実績(10億1800万トン)以下に抑える方針だが、実需が回復しない限りは市況上昇には繋がらない可能性あり。	3月上旬の米国の銀行の破綻とそれによる欧州の銀行への影響波及等により、再度世界的な景気後退懸念が浮上り、棒鋼の主な輸出先である韓国は中小セネコンの財務状況悪化等により需要が低迷。他方アジア各国半導体の状況は改善していたもののコロナ禍からの一定の回復、中国ゼロコロナ撤廃に伴い、人の往来・建設案件の再開が活発化、形鋼の輸出増加に繋がった。

## 鉄鋼流通問題懇談会（2023年4月）

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・3月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回（12月）調査比▲6の+1と、5期連続の悪化。供給制約が徐々に改善している自動車などは改善するも、世界経済の減速により需要が落ち込む中、素材業種では市況悪化による在庫評価損も影響し、石油、石炭製品や化学を中心に業況感が低下し、全体を押し下げた。先行きについても+3と3ポイントの悪化。一方で、22年度設備投資計画は大企業では前年度比+17.8%、23年度も+5.8%と、企業の投資意欲は底堅く、コロナ禍で抑制されていた老朽設備の維持、更新投資等でも設備投資が着実に進んでいくとみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家計部門について、2月小売業販売額は前年同月比+6.6%と12ヶ月連続の上昇。値上げ影響等もあり、上昇が継続。</li> <li>・製造部門では2月四輪車生産は前年同月比+6.3%と増加傾向が継続、2月の機械受注は▲4.5%と3か月振りの減少。</li> <li>・建築部門では2月の全建築物建築着工床面積は902万㎡（前年同月比▲2.2%）と減少傾向が継続となった。</li> </ul> <p>（海外）・コロナ禍からの回復基調は継続しているものの、インフレ抑制の金融引き締めや、金融危機への不安感もあり、世界経済には減速が見られる。一方で、中国については、ゼロコロナ政策が解除され、全人代での経済成長目標率も5%前後と設定されており、全体としては緩やかな経済回復が期待される。</p> <p>米国：底堅い個人消費継続の一方、大幅利上げ等による世界経済の減速により、23年の成長率は22年比では低下する見通し。          欧州：ウクライナ危機の影響や、インフレ抑制・金融引き締めの影響を受け、同様に成長率は低下する見通し。          中国：ゼロコロナ政策が解除され、全人代での経済成長目標率も5%前後と設定されており、緩やかな経済回復が期待される。          ASEAN：海外減速による輸出減は不可避であるが、観光業の回復や資源高の恩恵もあり、2023年は巡航速度の成長を維持。</p> <p>&lt;国内鉄鋼需給&gt;</p> <p>（生産）・23年3月の粗鋼生産は749万tと前年同月比で15ヶ月連続の減少。年度粗鋼は8,785万tで前年比▲8.1%          （出荷）・2月の普通鋼国内向け出荷は296万トンと13ヶ月連続の前月比減少。          （在庫）・2月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は557万トン2ヶ月振りの前月比減少。          ・2月末の薄板3品在庫は428万トン（前年同月▲26万トン）で減少傾向が継続。          ・2月末の厚板シャー在庫は43万トンで6か月連続の減少。</p>
2. 需要産業動向	<p>〔建 築〕・2月の新設住宅着工戸数は6.4万戸（前年同月比▲0.3%）で2ヶ月振りの減。          ・非住宅着工床面積は357万㎡（同▲3.8%）で2か月振り減。商業、サービス向け、公共事業向け等で減。</p> <p>〔自動車〕・3月の国内販売（輸入車除く）は53.7万台（前年同月比+12.5%）。7か月連続の増加。          ・2月の完成車輸出は31.3万台（同+0.2%）で3か月振りのプラス。          ・2月の四輪生産（速報）は73.8万台（同+6.3%）で2ヶ月連続のプラス。</p> <p>〔造 船〕・3月の新造船受注量は98万GT。手持工事量は2,216万GTと2千万台を維持。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・2月の全鉄鋼輸出は263万トン（前年同月比+2.2%）で2ヶ月連続の増加。          〔輸入〕・2月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は40万トン（前年同月比+12.2%）と2ヶ月振りの増加。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月の世界粗鋼生産は1億6,510万トン（前年同月比+1.7%）で6か月振りの増。</li> <li>・3月の中国粗鋼生産は9,573万トン（同+6.9%）。</li> <li>・3月の中国鋼材輸出は789万トン（同+59.6%）。</li> <li>・中国市中在庫は、3月31日時点で1,476万t（同▲12%）。</li> </ul>